愛媛大学教育学部紀要　教育科学　第47巻　第2号　133～143　2001

40歳代男性のスポーツ活動に関する研究
―― 地域スポーツを中心にして ――

堺　　賢治
（保健体育研究室）

（平成12年10月19日受理）

A Study on the Sport Activities of Forties-men
―― with Centering upon Community Sport ――

Kenji SAKAI

I．研究目的

戦後の高度経済成長は地域共同体の崩壊をもたらした。そのために，コミュニティづくりの一環として地域活動が推進されてきた。しかしながら，豊かな時代になると地域に依存しなくても十分に生きていけるようになってきている。ところがバブルの崩壊以後，日本の経済成長は右肩下がりの傾向を示してきており(1)，21世紀も豊かな時代が続くとは思われない。加えて，現在の40歳代が高齢者になる時代は超高齢化社会をむかえ，その扶養が大きな社会問題になってくる。日本の経済状況を鑑みると大きな政府よりも小さな政府に移行しつつあり，もう一度地域に依存しなければいけない時代が来ると予測される。その際，地域の再構築が必要になってくるものと思われる。

そのような状況の中で，地域活動の中でも最も参加者の多いスポーツ活動の果たす機能はコミュニティづくりのために重要になってくる。しかし，今日のスポーツトレンドをみると，スポーツ種目が集団でおこなうものから個人や数人でおこなうものに，地域スポーツから商業スポーツに変わりつつある(2)。また，40歳代は体力的な低下が見られる時期であり，特に男性においては，ライフステージからみると仕事が忙しくなるために「地域離れ」が起こる時期である。さらに，今までの男性の地域スポーツというと野球やソフトボールが主であり，40歳代・50歳代男性の地域スポーツと呼ばれるものがあまりみられない(3)。

そこで，本研究では，40歳代男性の過去・現在・未来にわたるスポーツ活動の実態を把握し，その中で地域スポーツの占める位置を明らかにし，地域スポーツがコミュニティづくりに寄与しているかについて明確にすることを目的にした。

Ⅱ．研究方法

調査対象：愛媛県松山市久米校区の40歳代男性500名（選挙人名簿により抽出）
調査期間：1996年6月
調査方法：質問紙による郵送調査
回 収 率：有効回収数　237名　　有効回収率　47.4%
分析の視点

40歳代男性の地域スポーツ行事への参加程度により，「よく参加している」と「ときどき参加している」をA群（N=67），「参加していない」をB群（N=124）とした。

表1　地域スポーツ行事への参加度　(%)

項　目	N	%
よく参加している	24	10.1
ときどき参加している	43	18.1
あまり参加していない	46	19.4
参加していない	124	53.2

表1によると，地域スポーツ行事への参加者は「よく参加している」と「ときどき参加している」を合計すると28.2%であり，少人数の人しか参加していないといえる。

Ⅲ．結果及び考察

1．スポーツ活動

(1)　10年前（30歳代）のスポーツ活動

①　種　目

表2は40歳代の人々が10年前に実施したスポーツ活動の種類をたずねたものである。全体では，「ゴルフ」が32.1%と最も多く，次いで「ソフトボール」の26.6%，「ボーリング」の11.0%，「野球」の10.1%と続いており，商業スポーツと地域スポーツに分化しているといえる。

両群を比較すると，A群の人は「ソフトボール」が44.8%と最も多く，「ゴルフ」の32.8%，「テニス」の14.9%，「野球」の13.4%，「ボーリング」の11.9%と続いており，実施していない人はわずか4.5%しかいない。A群の人は「ゴルフ」を除けば地域スポーツの占める割合が高いといえる。一方，B群の人では，「ゴルフ」が31.5%と最も多く，「ソフトボール」の18.5%，「ボーリング」の9.7%と続いており，実施していない人も25.0%と多い。B

表2　10年前のスポーツ活動の種類　(%)

項　目	A群	B群	合計
ゴルフ	32.8	31.5	32.1
ソフトボール	44.8	18.5	26.6
ボーリング	11.9	9.7	11.0
野球	13.4	8.1	10.1
テニス	14.9	5.6	8.0
水泳	3.0	7.3	7.6
ウォーキング（散歩）	9.0	5.6	6.8
レクリエーション・スポーツ	9.6	6.6	6.8
ジョギング	6.0	2.4	4.2
バドミントン	7.5	3.2	4.2
バレーボール	4.5	3.2	4.2
トレーニング	3.0	4.0	3.8
卓球	0.0	3.2	2.5
その他	9.0	10.5	10.3
行っていなかった	4.5	25.0	16.5

（2つまで○印）

群の人は商業スポーツの占める割合が高いといえる。40歳代で地域のスポーツ行事に参加している人は30歳代での地域スポーツをよくしているし，参加していない人はそれほどしていない傾向がみられる。

② 頻　　度

表３は10年前のスポーツ活動実施頻度についてたずねたものである。全体では，「週３回以上」と「週に１～２回」の定期的なスポーツ活動をしている人は38.5%にもおよび，よく運動をしているといえる。

表３　10年前のスポーツ活動の実施頻度　(%)

項　　目	A群	B群	合計
週に３回以上	16.4	14.0	14.1
週に１～２回程度	29.9	19.8	24.4
月に１～２回程度	32.8	24.8	28.4
年に数回程度	16.4	15.7	16.6
行っていなかった	4.5	25.8	16.6

両群を比較すると，A群の人は，定期的なスポーツ活動をしている人が46.3%にもなり，B群の人の33.8%に比べてよく運動をしている。この理由として，A群の人のスポーツクラブ加入率は32.8%であり，B群の人の16.1%に比べて高く，そのことが定期的なスポーツ活動に影響を及ぼしているものと思われる。

③ 実施場所

表４は10年前のスポーツ活動を行っていた場所を示したものである。全体では，「商業施設」が28.7%と最も多く，ついで「公共施設」の26.6%，「学校施設」の19.4%と続いている。スポーツ活動の種類からもわかるように商業スポーツや地域スポーツを実施する施設が多い。

表４　10年前のスポーツ活動の実施場所　(%)

項　　目	A群	B群	合計
公共施設	40.3	21.0	26.6
学校施設	37.3	8.9	19.4
職場の施設	14.9	14.5	13.5
商業施設	26.9	30.6	28.7
公園・空き地・道路	23.9	10.5	15.6
野外（海・山）	16.4	15.3	18.1
その他	1.5	0.8	1.6

（２つまで○印）

両群を比較すると，A群の人は「公共施設」が40.3%と最も多く，ついで「学校施設」の37.3%，「商業施設」の26.9%と続き，地域でのスポーツ活動をしている人が多いことがわかる。一方，B群の人では，「商業施設」30.6%，「公共施設」21.0%の順であり，商業スポーツをよくしていることがわかる。また，「学校施設」はわずか8.9%であり，あまり利用していないといえる。

(2) 現在（40歳代）のスポーツ活動

① 種　　目

表５は現在のスポーツ活動の種類をたずねたものである。全体では，「ゴルフ」が39.2%と最も多く，次いで「ウォーキング」の19.8%，「ソフトボール」の11.4%，「ボーリング」の11.0%と続いている。商業スポーツや手軽に出来るスポーツが多く，「ソフトボール」の落ち込みがみられる。また，30歳代に比べて，実施してない人も少しであるが増加している。

両群を比較すると，A群の人は「ゴルフ」が38.8%と最も多く，「ソフトボール」の23.9%，「ウォーキング」の20.9%，「ボーリング」の16.4%，「レクリエーション・スポーツ」の11.9%と続いており，実施していない人も13.4%に増加している。地域スポーツ行事に参加している人でも「ゴルフ」が第一位をしめ，30歳代に比べると，「ソフトボール」の２割以上の

落ち込みがみられる。また，健康づくりのための「ウォーキング」の伸びがみられる。

一方，B群の人では，「ゴルフ」が38.7%と最も多く，「ウォーキング」の18.5%と続いており，30歳代に二番目であった「ソフトボール」は，わずか6.5%までに減少している。B群の人は，A群の人に比べて「地域離れ」が加速化しているといえる。

表5　現在のスポーツ活動の種類

(%)

項　目	A群	B群	合計
ゴルフ	38.8	38.7	39.2
ウォーキング（散歩）	20.9	18.5	19.8
ソフトボール	23.9	6.5	11.4
ボーリング	16.4	6.5	11.0
レクリエーション・スポーツ	11.9	4.8	6.3
水泳	4.5	6.5	5.9
テニス	7.5	3.2	5.5
ジョギング	6.0	4.0	4.2
バドミントン	7.5	1.6	3.8
野球	4.5	2.4	2.5
バレーボール	4.5	1.6	2.5
トレーニング	1.5	2.4	2.1
卓球	1.5	0.0	0.4
その他	7.5	8.1	8.0
行っていない	13.4	29.8	23.2

（2つまで○印）

② 頻　度

表6は現在のスポーツ活動実施頻度についてたずねたものである。全体では，「週に3回以上」と「週に1～2回」の定期的にスポーツ活動をしている人は30.5%であり，30歳代に比べると減少していることがわかる。減少の理由としては，40歳代男性の特徴として，体力の低下がみられることや職場において管理職につく時期であり仕事が忙しくなってくることなどがあげられよう。

表6　現在のスポーツ活動の実施頻度

(%)

項　目	A群	B群	合計
週に3回以上	11.9	11.4	11.9
週に1～2回	25.4	16.3	18.6
月に1～2回程度	28.4	15.4	20.3
年に数回程度	20.9	27.6	26.3
行っていない	13.4	29.3	22.9

両群を比較すると，A群の人は，定期的なスポーツ活動をしている者は37.3%であり，B群の人の27.7%に比べてよく運動をしているいえる。しかしながら，A群の人でも30歳代の頻度に比べて1割近く落ち込んでいる。

③ 実施場所

表7は現在のスポーツ活動の実施場所を示したものである。全体では，「商業施設」が33.3%と最も多く，ついで「公園・空き地・道路」の21.5%，「野外（海・山）」の18.6%と続いている。30歳代に比べると，「商業施設」の増加と「公共施設」と「学校施設」の減少がみられ，40歳代男性の「地域離れ」現象がみられる。

両群を比較すると，A群の人は「学校施設」が38.8%と最も多く，ついで「商業施設」の34.3%，「公園・空き地・道路」の28.4%，「公共施設」の22.4%と続いている。30歳代と比べると，「学校施設」は変化していないが，「公共施設」の2割程度の大幅の落ち込みと「商業施設」「公園・空き地・道路」の増加

表7　現在のスポーツ活動の実施場所

(%)

項　目	A群	B群	合計
公共施設	22.4	12.9	17.3
学校施設	38.8	3.2	13.5
職場の施設	6.0	8.1	6.8
商業施設	34.3	32.3	33.3
公園・空き地・道路	28.4	17.7	21.5
野外（海・山）	16.4	17.7	18.6
その他	1.5	4.0	4.2

（2つまで○印）

がみられる。

一方，B 群の人では，「商業施設」が32.3%と最も多く，ついで「公園・空き地・道路」と「野外（海・山）」の17.7%であり，商業スポーツは余り変化していないが，「公共施設」の減少と「公園・空き地・道路」の増加がみられる。

④　スポーツ阻害要因

現在のスポーツ阻害要因について質問（非常にそう思う，どちらかといえばそう思う，どちらかといえばそう思わない，全くそう思わない）し，各質問に対して「非常にそう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した数字を合計したのが表8である。全体で5割を越えているのは，「仕事が忙しい」の75.5%，「時間がない」の72.1%，「場所・施設がない」の60.3%，「施設・用具が足らない」の51.5%である。スポーツ実施の一番目の阻害要因は時間的要因である。次に，二番目の要因は施設・用具面である[4]。特に，平成12年度現在において，松山市は人口47万人の都市にも関わらず公共の体育館やプールが一つしかなく，ハード面の不足が響いているのではなかろうか。

表8　スポーツ阻害要因

(%)

項　　目	A 群	B 群	合計	
仕事が忙しい	73.1	74.2	75.5	
時間がない，少ない	67.1	72.6	72.1	
場所・施設がない，少ない	68.7	53.2	60.3	※
施設・用具が足りない	61.2	45.2	51.5	※
仲間がいない，少ない	46.2	47.6	46.4	
活動費用がかかりすぎる	37.3	41.9	43.4	
指導者がいない	43.3	35.5	36.7	
施設までの距離が遠い	25.4	30.7	29.9	
体力に自信がない	23.9	33.0	29.5	※
技能・技術に自信がない	22.4	25.9	25.3	
自分にあった種目がない	13.4	22.5	20.3	※
健康に自信がない	12.0	17.7	15.6	

※有意差のみられた項目

両群を比較すると，有意差がみられた項目として，A 群の人は「場所・施設がない」と「施設・用具が足らない」が B 群の人よりも多い。この理由として，松山市は公共施設や夜間照明のついた学校施設が共に不足しており，地域スポーツが主体である A 群の人の方がスポーツ施設の不足を指摘しているものと思われる。一方，B 群の人では「体力に自信がない」と「種目がない」が A 群よりも多い。この理由として，B 群の人はスポーツ経験が少なく，実施頻度も少ないためにあらわれたのではなかろうか。

⑶　今後（50歳代）のスポーツ活動

①　種　　目

表9は今後どのようなスポーツ活動を行いたいかをたずねたものである。全体では，「ゴルフ」が34.6%と最も多く，次いで「ウォーキング」の24.1%，「テニス」と「レクリエーション・スポーツ」の14.3%，「水泳」の13.9%，「トレーニング」の13.1%，「ジョギング」の12.2%と続いている。そして，「したくない」と回答した人はわずか4.6%である。今後のスポーツ活動としては，「ソフトボール」などの集団でおこなう地域スポーツが少なくなってきており，個人や数人でおこなうスポーツが多くなっている。また，健康づくりにつながるエアロビクス的なスポーツ（ウォーキング，水泳，ジョギング）も多くなっている。

両群を比較すると，A 群の人は「ゴルフ」が34.3%と最も多く，「レクリエーション・スポ

ーツ」の20.9%，「水泳」の19.4%，「ウォーキング」の17.9%，「テニス」の16.4%，「ジョギング」の14.9%，「ソフトボール」の13.4%と続いている。40歳代と比べると，「レクリエーション・スポーツ」と「水泳」がのびている。

一方，B群の人では「ゴルフ」が32.3%と最も多く，「ウォーキング」の26.6%，「トレーニング」の13.7%，「テニス」の12.9%，「レクリエーション・スポーツ」の11.3%と続いている。40歳代と比べると「ウォーキング」「トレーニング」「テニス」がのびている。

表9　今後のスポーツ活動の種類

(%)

項　　目	A群	B群	合計
ゴルフ	34.3	32.3	34.6
ウォーキング（散歩）	17.9	26.6	24.1
テニス	16.4	12.9	14.3
レクリエーション・スポーツ	20.9	11.3	14.3
水泳	19.4	9.7	13.9
トレーニング	10.4	13.7	13.1
ジョギング	14.9	5.6	12.2
ソフトボール	13.4	8.1	9.3
ボーリング	0.3	8.1	6.8
バドミントン	10.4	4.8	5.9
野球	3.0	5.6	3.8
卓球	1.5	1.6	2.1
バレーボール	1.5	0.8	1.3
その他	7.5	16.9	13.1
したくない	3.0	9.3	4.6

（2つまで○印）

② 実施場所

表10は今後のスポーツ活動の実施場所を示したものである。全体では，「公共施設」が46.0%と最も多く，次いで「野外（海・山）」の34.6%，「商業施設」の29.5%，「公園・空き地・道路」の25.3%であり，「学校施設」はわずかに9.3%である。40歳代に比べると，「公共施設」と「野外（海・山）」の大幅な増加がみられる。特に「公共施設」は3割ものびており，行政もこの住民のニーズの答えて公共のスポーツ施設を建設する必要があろう。また，「学校施設」の減少は，40歳代男性の「地域離れ」現象が今後ともより加速化していくものと思われる。

表10　今後のスポーツ活動の実施場所

(%)

項　　目	A群	B群	合計
公共施設	47.8	44.4	46.0
学校施設	22.4	3.2	9.3
職場の施設	7.5	8.1	7.2
商業施設	22.4	29.0	29.5
公園・空き地・道路	23.9	22.6	25.3
野外（海・山）	29.9	37.9	34.6
その他	4.5	4.0	3.8

（2つまで○印）

両群を比較すると，A群の人は「公共施設」が47.8%と最も多く，ついで「野外」の29.9%，「公園」の23.9%，「学校施設」と「商業施設」の22.4%と続いている。40歳代と比べると，「公共施設」「野外」の増加と「学校施設」「商業施設」の減少がみられる。

一方，B群の人でも「公共施設」が44.4%と最も多く，ついで「野外」の37.9%，「商業施設」の29.0%，「公園」の22.6%と続き，「学校施設」はわずかに3.2%しかない。40歳代と比べると，「公共施設」と「野外」の増加がみられ，他の施設は余り変化していない。

③ 仲　間

表11は今後，どのような仲間とスポーツ活動を行いたいかたずねたものである。全体では，「家族と」が33.9%と最も多く，次いで「友人と」の21.5%，「地域の人と」の14.8%，「職場の人と」の10.5%と続いている。地域の人をあげた人は少なく，家族や友人などの身近な人とのスポーツ活動を望んでいる人が多い。

両群を比較すると，A群の人は，「家族」40.2%や「地域」23.9%の人が多く，一方，B群の人では，「家族」28.3%や「友人」23.4%が多い。

表11　今後のスポーツ活動の実施仲間

(%)

項　　目	A群	B群	合計
家族と	40.2	28.3	33.9
友人と	14.9	23.4	21.5
地域の人と	23.9	9.7	14.8
職場の人と	6.0	13.7	10.5
地域のスポーツクラブの人と	9.0	4.8	6.3
ひとりで	0.0	7.3	4.6
その他	3.0	7.2	4.6
行わない	3.0	5.6	3.8

今後のスポーツ活動（種類，施設，仲間）にあらわれた結果から，次のようなことがいえる。

50歳代男性の地域スポーツが少ないことは問題をはらんでいるといえる。男性の場合，会社を定年で辞めて，60歳代になって地域スポーツに参加した人が地域スポーツクラブからドロップアウトした事例が報告されており[5]，会社を辞める数年前から地域スポーツクラブに加入した方がより容易に適応できる実態を考えると何か手を打たなければならないと思われる。この意味から，50歳代の地域スポーツ種目の開発が必要となろう。また，家族で出来るスポーツ，例えば，ニュースポーツ（レクリエーション・スポーツ）の導入が大切であろう。また，30歳代，40歳代，50歳代のスポーツ活動と高齢者のスポーツ活動を連続させる意味での総合型地域スポーツクラブの設立が望まれる。

2．地域活動

(1)　地域行事

地域行事（祭り，盆踊り，清掃）への参加度をあらわしたのが表12～表14である。

表12は祭りの参加状況を示したものである。全体では，「よく参加する」14.4%，「ときどき参加する」34.7%であり，約5割の人が参加しているといえる。

両群を比較すると，「よく参加する」と「ときどき参加する」を合わせると，A群の人は85.1%，B群の人では27.6%である。

表12　祭り

(%)

項　　目	A群	B群	合計
よく参加する	41.8	1.6	14.4
ときどき参加する	43.3	26.0	34.7
参加しない	14.9	72.4	50.9

$P<0.001$（χ^2検定，以下同じ）

表13は盆踊りの参加状況を示したものである。全体では，「よく参加する」3.8%，「ときどき参加する」21.3%であり，約4分の1の人が参加しているといえる。

両群を比較すると，「よく参加する」と「ときどき参加する」を合わせると，A群の人は56.0%，B群の人では9.8%である。

表13　盆踊り

(%)

項　　目	A群	B群	合計
よく参加する	13.6	0.0	3.8
ときどき参加する	42.4	9.8	21.3
参加しない	44.0	90.2	74.9

$P<0.001$

表14　清掃

(%)

項　　目	A群	B群	合計
よく参加する	55.2	29.0	38.4
ときどき参加する	29.9	39.5	36.3
参加しない	14.9	31.5	25.3

$P<0.01$

表14は清掃の参加状況を示したものである。全体では，「よく参加する」38.4%，「ときどき参加する」36.3%であり，約4分の3の人が参加しているといえる。

両群を比較すると，「よく参加する」と「ときどき参加する」を合わせると，A群の人は85.1%，B群の人では68.5%である。

地域行事の参加は清掃，祭り，盆踊りの順である。また，地域のスポーツ行事に参加している人ほど他の地域行事によく参加している。

(2) コミュニティ意識

鈴木　広[6]はコミュニティ意識をコミュニティ・モラールとコミュニティ・ノルムに分けているが，本稿ではコミュニティ・モラールからみていく。

コミュニティ・モラールは人々のコミュニティに関する関与の程度を知るための概念装置である。したがってコミュニティ・モラールが高いほど，コミュニティ形成にとって望ましいといえる。またコミュニティ・モラールは感情，統合認知，参加意欲の三要素からなっている。

感情は，愛着感，同一感，安定感，満足感などといった感情の水準を問うものである。

統合認知は，コミュニティというまとまりについて評価するものである。

参加意欲は，参加意志，役割意識，使命観，達成欲求など，コミュニティに対する関与の強さを表すものである。

コミュニティ・モラールに関する質問文については次のような内容である。

〈感　情〉

1．安 堵 感…外出してこの町に帰ってきた時に，「自分の町に帰ってきた」と感じてホッとしていますか。

2．同 一 視…人からこの地域の悪口を言われたら，何か自分の悪口を言われたような気になりますか。

3．仲間意識…この町の人たちはみんな仲間だという気がしますか。

4．好き嫌い…この町（地域）が好きですか。

〈統合認知〉

1．まとまり…この町の人たちのまとまりはいい方だと思いますか。

2．リーダー…この地区のリーダーたち（町内会とか婦人会，PTAなどの役員など）はがいして地域のためによくやっていると思いますか。

3．相互扶助…この地区に住んでいるみんなは，お互いに何かとお世話しあっていますか。

4．団 結 心…この町の人たちはお互いに協力する気持（団結心）が強い方だと思いますか。

〈参加意欲〉

1．役割意識…この町のためになることをして何か役に立ちたいと思いますか。

2．地域政治…この町や校区を代表する市会議員を出すことは大切だと思いますか。

3．地域行事への参加…町内や校区で一緒にする行事（運動会，寄付，清掃，署名活動など）にあなたは参加する方ですか。

4．行事関心…町内，校区内でするいろいろなこと（役員改選，年中行事，建設，道路事業など）に関心がありますか。

そして，これらの質問に対してはすべて五段階にランクづけされた回答，例えば「この町

（地域）が好きですか」に対しては，①非常にすき，②やや好き，③どちらでもない，④やや嫌い，⑤非常に嫌い，などを用意した。

表15～表26は，感情（安堵感，同一視，仲間意識，好き嫌い），統合認知（まとまり，リーダー，相互扶助，団結心），参加意欲（役割意識，地域政治，地域行事への参加，行事関心）を表したものである。

コミュニティ意識の形成について有意差があったのは，感情の安堵感，同一視，仲間意識，統合認知のリーダー，参加意欲の役割意識，地域政治，地域行事への参加，行事関心である。また，有意差のみられなかった感情の好き嫌い，統合認知のまとまり，相互扶助，団結心において，A群の人の方が高い値を示している。

表15　安堵感　（%）

項　　目	A群	B群	合計
その通りだと思う	11.9	10.5	14.3
まあその通りだと思う	64.2	41.0	49.3
どちらともいえない	16.4	29.0	24.1
あまりそうは思わない	7.5	13.7	9.3
ほとんどそうは思わない	0.0	5.8	3.0

P<0.001

表16　同一視　（%）

項　　目	A群	B群	合計
かなりそう感じる	4.5	6.5	7.2
まあそう感じる	50.8	35.4	39.6
どちらともいえない	31.3	26.6	29.1
あまりそうは感じない	13.4	21.8	19.0
ほとんどそうは感じない	0.0	9.7	5.1

P<0.05

表17　仲間意識　（%）

項　　目	A群	B群	合計
そう思う	3.1	1.8	2.1
まあそう思う	29.2	9.7	18.7
どちらともいえない	44.7	43.4	41.8
あまりそうは思わない	21.5	36.2	32.3
ほとんどそうは思わない	1.5	8.9	5.1

P<0.01

表18　好き嫌い　（%）

項　　目	A群	B群	合計
非常に好き	20.9	16.9	18.6
やや好き	53.7	39.6	46.8
どちらともいえない	25.4	37.9	31.2
やや嫌い	0.0	3.2	1.7
非常に嫌い	0.0	2.4	1.7

N. S.

表19　まとまり　（%）

項　　目	A群	B群	合計
非常によい	6.2	1.6	3.0
まあよい	44.7	27.0	34.3
どちらともいえない	33.8	52.5	46.8
やや悪い	13.8	14.8	13.3
非常に悪い	1.5	4.1	2.6

N. S.

表20　リーダー　（%）

項　　目	A群	B群	合計
非常によくやっている	13.6	8.1	10.6
まあよくやっている	68.2	43.1	55.4
どちらともいえない	15.2	41.5	28.9
あまりやってない	3.0	7.3	5.1
全くやっていない	0.0	0.0	0.0

P<0.01

表21　相互扶助　（%）

項　　目	A群	B群	合計
全くその通りだと思う	4.5	2.4	2.5
まあその通りだと思う	35.8	25.8	32.5
どちらともいえない	47.8	46.8	44.7
あまりそうではないと思う	10.4	22.6	18.6
ほとんどそうでないと思う	1.5	2.4	1.7

N. S.

表22　団結心　（%）

項　　目	A群	B群	合計
非常に強い方だと思う	3.0	0.0	1.3
やや強い方だと思う	31.3	18.7	24.6
どちらともいえない	52.3	59.3	54.6
やや弱い方だと思う	13.4	16.3	16.1
非常に弱い方だと思う	0.0	5.7	3.4

N. S.

表23　役割意識　(%)

項目	A群	B群	合計
そう思う	6.0	5.6	5.5
まあそう思う	53.7	27.6	38.3
どちらともいえない	32.8	42.6	37.0
あまり思わない	6.0	16.9	14.3
ほとんど思わない	1.5	7.3	4.9

P<0.05

表24　地域政治　(%)

項目	A群	B群	合計
非常に大切だと思う	31.3	16.1	22.8
やや大切だと思う	34.3	29.0	30.3
どちらともいえない	29.9	25.8	26.2
あまり大切だとは思わない	1.5	21.0	14.8
全く大切だとは思わない	3.0	8.1	5.9

P<0.05

表25　地域行事への参加　(%)

項目	A群	B群	合計
よく参加する	37.3	4.8	14.3
ある程度参加する	41.8	38.7	44.0
どちらともいえない	16.4	11.3	12.2
あまり参加しない	3.0	24.2	17.3
ほとんど参加しない	1.5	21.0	12.2

P<0.001

表26　行事関心　(%)

項目	A群	B群	合計
非常に関心がある	6.1	3.2	3.4
やや関心がある	39.4	19.4	28.0
どちらともいえない	39.4	22.6	29.6
あまり関心がない	15.1	37.1	28.8
ほとんど関心がない	0.0	17.7	10.2

P<0.001

表27は感情，統合認知，参加意欲のそれぞれ4つの調査内容を点数化（＋2，＋1，0，－1，－2）し，まとめてその平均を出したものである。感情，統合認知，参加意欲のどれをとってもA群の人の方が高い値を示している。つまり，地域スポーツ行事によく参加している人ほどコミュニティ意識が高く，コミュニティ形成に寄与しているといえる。

表27　タイプ別からみたコミュニティ意識　(%)

モラール／参加活動数	感情					統合認知					参加意欲				
	＋2	＋1	0	－1	－2	＋2	＋1	0	－1	－2	＋2	＋1	0	－1	－2
A群	10.1	49.4	29.5	10.6	0.4	6.8	44.9	37.3	10.2	0.8	20.2	42.3	29.6	6.4	1.5
B群	8.9	31.4	34.3	18.7	6.7	3.0	28.7	50.0	15.3	3.0	7.4	28.7	25.6	24.8	13.5
全体	10.6	38.6	31.5	15.6	3.7	4.4	36.7	43.7	13.3	1.9	11.5	35.1	26.3	18.8	8.3

Ⅳ．結　論

(1) 30歳代，40歳代，50歳代男性のスポーツ活動をみると，どの世代ともゴルフが一位であり，商業スポーツの占める割合が高い。

(2) 地域スポーツの視点からみると，40歳代の地域スポーツ行事参加者（A群の人）は，30歳代の時に，ソフトボールを中心にしたスポーツ活動を公共施設や学校施設でおこなっているが，40歳代，50歳代になると地域スポーツの占める割合が少なくなってきている。一方，40歳代の地域スポーツ行事不参加者（B群の人）は30歳代の時から商業スポーツが中心であり，その傾向はかわらない。

(3) 40歳代の人のスポーツ阻害要因として，時間的要因と施設的要因があげられる。特に，地域スポーツ行事参加者ほど施設の不足を指摘しており，施設の増設が望まれる。

(4) 地域スポーツ行事参加者ほど地域行事（祭り，盆踊り，清掃）によく参加している。また，コミュニティ意識が高く，コミュニティづくりに寄与している。

(5) 日本の将来を考えると，40歳代，50歳代男性の地域スポーツを創造することとスポーツ施設を作ることは，彼らが高齢者になった時の医療費の削減やコミュニティづくりに寄与するものと思われる。その意味からもスポーツ活動を地域でつなぐ総合型地域スポーツクラブの設立が望まれる。

参 考 文 献

(1) 水谷研治著 「右肩下がりの日本経済」 PHP 研究所 1996
(2) 堺 賢治・相原順治 「大学生のスポーツトレンドに関する研究」 愛媛大学教育学部紀要 第Ⅰ部 第34巻第2号 pp. 187－197 1992
(3) 堺 賢治 「魅力あるコミュニティスポーツを考える」 みんなのスポーツ 第10巻 第12号 pp. 26－27 1990
(4) 堺 賢治 「公民館分館のスポーツ活動に関する研究－地域スポーツ行事参加者と不参加者の比較－」 愛媛大学教育学部紀要 第Ⅰ部 第35巻 p. 130 1989
(5) 梶谷健二 「高齢者の余暇活動に関する研究－地域テニスクラブの調査・事例を中心に－」 日本社会教育学会第43回研究大会発表要旨集録 p. 62 1996
(6) 鈴木 広編 「コミュニティ・モラールと社会移動の研究」 アカデミア出版会 1978